

❄️ TOP NEWS

## 地域医療連携福祉センターからのご挨拶

地域医療連携福祉センター長 篠原 信雄



日頃より、北海道大学病院の診療並びに当院の地域医療連携にご尽力いただきまして誠にありがとうございます。

本年初頭から始まった新型コロナウイルス感染症は、日本そして全世界に拡大し、日常生活、経済、医療など様々な領域に大きな悪影響を与えてきています。医療領域においても新型コロナウイルスに対する有効なワクチン、治療薬が現時点で得られていない現状もあり、感染予防対策（入院患者への面会禁止、発熱外来の実施、PCR検査の充実）等を講ずることにより、かろうじて感染拡大を抑制している状況です。このような体制で、新型コロナウイルス感染症の第2波までは越えたと思われましたが、12月を迎え、第2波以上に大きな第3波と思われる感染拡大が札幌を含む北海道に襲い掛かってきています。感染拡大を抑え込むた

めには、さらに厳格な感染予防対策の実施が必要です。あわせて外来患者さんの受診行動の変容が求められることになるかもしれません。その点で、地域の多くの医療機関との医療連携を充実させ、限られた医療資源をベースに、多くの患者さんに高品質で安全な医療を継続的に提供する体制の確立が必須です。

当院では、以前より地域医療機関と円滑な情報連携を図るため、ID-LINKと Area Connectを用いた ICT ネットワークを導入しております。しかし、現時点では必ずしもこのネットワークの存在自体が当院を含め多くの医療者に周知されておらず、また情報共有のための同意書の問題など課題もあったため、十分活用されているとは言えない状況でした。当院ではこれらの障害を解除すべく解決を図ってきており、患者さん、そして医療者の利便性の向上のためにも、地域医療連携 ICT ネットワークの拡充を図る所存です。

コロナ禍もいずれは終息するものと思いますが、終焉後も医療体制は大きく変容し、ICTネットワークを活用した連携システムは、地域医療において重要な役割の一端を担うものと思います。その点で、今後も積極的にこのシステムを拡大、活用、そして改善していくことが必要だと思っております。皆様にはご協力ご尽力のほどよろしくお願いいたします。

## 外来診療のご紹介

当科の特長は、肝臓、消化管、がん化学療法、胆膵、炎症性腸疾患の5分野を柱とした専門グループによる高いレベルでの診療です。深い専門性を持ち、かつ消化器内科一般の基幹項目の知識、技能を備えた「総合消化器内科」を目指しています。

### 肝疾患

ウイルス性肝疾患、脂肪性肝炎、自己免疫性肝疾患、鬱血性肝疾患、先天性肝疾患、急性肝不全、肝硬変、さらに肝細胞癌などの肝腫瘍に対し、早期発見、早期診断を心がけ、最適な治療をマネジメントします。重症の急性肝不全における最後の砦として、全道より患者を受け入れ、肝移植グループと連携して治療に当たっています。

### 消化管疾患

内視鏡グループが、中央診療部門としての光学医療診療部を兼任し、院内の消化管内視鏡検査と消化器内視鏡治療を担っています。外来は消化管新来と再来を教員が担当しています。内視鏡検査は平日毎日、上部、下部、カプセル内視鏡、超音波内視鏡、内視鏡治療が可能です。また、ピロリ菌専門外来では、保険適応外となる三次除菌とアレルギー患者の除菌を自由診療で行っています。

### がん化学療法

食道癌、胃癌、大腸癌、膵癌、GIST等を主とした消化器癌に対する薬物療法を行っています。標準治療はもちろんのこと、免疫チェックポイント阻害薬をはじめとした各種開発治験や臨床研究を数多く受託し、新規治療の開発も行っています。最近では臨床試験において、組織/血液を用いた網羅的遺伝子解析(パネル検査)も実施しており、患者さんに提供する治療選択の幅を広げています。

### 胆膵疾患

診断困難症例や悪性腫瘍を中心に全ての胆膵良悪性疾患を対象に診療を行っています。超音波内視鏡検査、内視鏡的逆行性胆管膵管造影、内視鏡的ドレナージ術を行い、胆管狭窄/拡張、膵管拡張/狭窄の原因診断、胆管癌や膵癌の術前診断、非侵襲的な胆膵内視鏡治療に力を入れています。



### 炎症性腸疾患

急激な増加傾向を示している潰瘍性大腸炎とクローン病を中心に診療を行っています。近年、様々な腸疾患が注目されるようになり、鑑別診断も多様化しています。治療の選択肢が増え、治療体系も複雑化してきています。若い患者さんが多いのがこれらの疾患の特徴であり、患者さんの病態のみならず、社会的背景にも配慮した治療を常に心掛けています。多彩な全身合併症に対し、他科との連携を密に取り、専門機関として集学的治療を行います。

### 初診・再診体制

消化器内科の新患外来は、紹介状と事前予約が必要となります。月～金曜日まで毎日受付にて対応しております。再来診療も担当医師による専門外来として行っております。対象となる患者さんがいらっしゃいましたら是非ご紹介ください。

#### 初診・再診体制

	月	火	水	木	金	土	日
消化管疾患	○	○	○	○	○	休診	休診
肝臓疾患	○	○	○	休診	○	休診	休診
胆膵疾患	○	休診	○	休診	○	休診	休診

※初診受付は8:30～12:00まで。

予約時間の20～30分前までに来院し、受付手続きをしてください。初診の場合は、紹介状と事前予約が必要です。

※再診受付は8:30～11:00まで。

診療券を再来受付機に通してください。

## 循環器外科外来診療のご紹介

循環器外科は、生まれながらの病気である先天性心血管疾患から、生活習慣や動脈硬化の影響を受け発症する後天性心疾患、大血管疾患、末梢血管疾患など幅広い心血管疾患に対する外科治療を行います。1991年に設立された当科は、本年4月に3代目となる若狭 哲教授を迎え、新たな体制で診療に臨み、地域医療に貢献します。

### 外来診療状況

新規受診は月・水・金曜日の午前に受け付けています（※先天性心疾患は水曜日のみ）。先天性心疾患以外の新規受診（月・金曜日）は、紹介状（診療情報提供書）は不要ですが、完全予約制です。その後、月・金曜日の再診外来（完全予約制）に振り分けられます。セカンドオピニオン外来に関しては、別枠で受付しています。

### 分野別診療状況

#### 【後天性心疾患】

虚血性心疾患に対しては、心拍動下バイパス手術を第1選択とし、左室拡大・心機能低下例には、左室形成術や僧帽弁複合体再建術など加え良好な結果を得ています。僧帽弁疾患、特に閉鎖不全症に対しては、90%以上の弁形成術を完遂しています。大動脈弁閉鎖不全症に対しては、可能な限り自己弁温存手術を適応しています。

#### 【大血管疾患】

胸部・腹部とも、解剖学的適応、患者さんの全身状態や併存症を総合的に判断し、従来の人工血管置換術とステントグラフトの適応を判断しています。ステントグラフト後病変に対しても、積極的な手術介入（瘤開放、腰動脈閉鎖など）を行っています。ステントグラフトでは治療が困難な、広範囲の胸腹部大動脈瘤に対して、綿密な手術プラン・臓器保護戦略（脊髄保護）を立て、良好な成績を収めています。



#### 【先天性心疾患】

小児科循環器グループとの綿密な連携の下、道内全域の先天性心疾患を持った子供たちの治療に当たっています。心房/心室中隔欠損に対する小切開低侵襲手術から、単心室疾患、左心低形成症候群のような複雑心奇形に対する手術まで、幅広い疾患・病態に24時間対応で診療に当たっています。

#### 【末梢血管疾患】

閉塞性動脈硬化症やバージャー病など動脈疾患に対して、薬物療法、血管内治療、バイパス治療を病態に応じて選択しています。下肢静脈瘤に対しては、静脈剥去術（ストリッピング手術）に代わり、日帰り手術が可能な高周波焼灼術を第1選択とし、病状と患者さんのライフスタイルを考慮した治療を行っています。

#### 【重症心不全（心移植）】

心移植実施施設である当施設では、多職種で構成される重症心不全治療チームを構成し、全道の患者を受け入れています。2020年9月の時点で7名の心移植を行っています。また、約30名の植込型補助人工心臓装着及び装着後の移植待機患者の外来管理を行っています。

#### 【慢性血栓性肺高血圧症（CTEPH）】

稀な疾患ですが、予後不良である CTEPH に対する外科治療（肺動脈血栓内膜摘除）を道内で唯一行い、20数名の患者さんを救命しています。第1内科循環代謝グループと連携し、他の治療法（バルーン拡張術・薬物療法）を含めた統合的な治療戦略を立て、生存率向上に努めています。

## 外来診療表

	月	火	水	木	金
新来	午前	休診	午前	午前（紹介状）	午前
再来	午前	休診	午前（8:30～10:00）	午前（紹介状）	午前
診療内容	後天性心疾患 大血管疾患 末梢血管疾患		先天性心疾患	後天性心疾患 胸部大血管疾患 移植・VAD	後天性心疾患 大血管疾患 末梢血管疾患
担当医	若狭 新宮 佐藤		加藤	若狭 大岡（移植・VAD）	大岡



## 2020年4月からの眼科外来の変更点

4月からの眼科外来の変更点についてお知らせいたします。

2020年4月から、午後を中心に行っていた各専門外来を、基本的に午前中に変更しました。新患日も月・水・金曜日の週3日ではなく、月～金曜日まで毎日の週5日に変更し、外来が密になるのを避けるようにしました。

また新患数の増加と疾患の専門化に伴い、従来の一診制は取りやめて、新患は専門外来の中で最初から診察していくことにいたします。

大学病院として、今まで以上に専門性の高い医療に集中することが、今回のシステム変更の目的です。4月以降、患者さんを新たにご紹介いただく際は、専門外来の曜日を確認したうえで、医事課新来予約受付担当・紹介予約を通してご予約をお願いいたします。

### 再来・専門外来の曜日変更について

#### 一般外来：2020年3月31日まで

(旧)	月	火	水	木	金
新患	○		○		○
一般再患	○		○	○	

#### 一般外来：2020年4月1日以降

(新)	月	火	水	木	金
新患	○	○	○	○	○
一般再患					

2020年4月1日以降、今までの一般再来は患者の受け入れを縮小し、可能なものは専門外来の中で対処していきます。

また専門外来に関しましても、4月からは曜日や時間に変更がございますのでご注意ください。

#### 一般外来：2020年3月31日まで

(旧)	月	火	水	木	金
午前		ぶどう膜炎			
午後	網膜硝子体 涙道 (月2回)	斜視・小児 角膜移植 眼アレルギー ドライアイ	緑内障	黄斑 眼循環代謝 眼形成手術	神経眼科 眼腫瘍 (月2回)

#### 一般外来：2020年4月1日以降

(新)	月	火	水	木	金
午前	網膜硝子体 ぶどう膜炎 眼アレルギー	ぶどう膜炎 斜視・小児	緑内障 角膜移植	黄斑 眼循環代謝 眼形成手術	神経眼科 ドライアイ 眼腫瘍 (第2・4金曜)
午後				涙道(第2木曜)	

### 新患の当院への紹介について

患者さんをご紹介いただく際には、下記の表をご参考に、医事課新来予約受付担当・紹介予約を通してご予約いただけますと幸いです。

#### 2020年4月1日からの新患受け入れ体制

対象疾患	曜日	担当医師
網膜・黄斑疾患	月・木	石田(隔週木曜)、野田、加瀬、安藤、齋藤
ぶどう膜炎	月・火	南場、岩田
眼アレルギー疾患	月	南場
小児・斜視	火	安藤
緑内障	水・金	陳(水曜日のみ)、新明、大口、木嶋
角膜疾患	水・金	大口、岩田、木嶋
眼形成疾患	木	石嶋
涙道疾患	第2木曜	山本(月1回)
神経疾患	水・金	新明
眼腫瘍	月・金	加瀬 ※金曜は第2・4金曜のみ

#### 新患日と曜日別対象疾患

曜日	対象疾患
月	網膜・黄斑疾患、眼腫瘍、ぶどう膜炎、眼アレルギー
火	ぶどう膜炎、小児
水	緑内障、角膜疾患、神経疾患
木	網膜・黄斑疾患、眼形成疾患、涙道疾患(第2木曜)
金	神経疾患、緑内障、角膜疾患、眼腫瘍

※週に2日、新患受け入れがある専門外来については赤字の曜日が優先されます

今後とも、当院眼科外来をよろしくお願いたします。

※現在、緊急性の少ない患者さんのご紹介は、「札幌市の新型コロナウイルス感染症に係る入院受入体制がフェーズ3」より改善するまでは、延期いただいております。

## 摂食・嚥下専門外来のご紹介

摂食・嚥下専門外来では口腔外科及び高齢者歯科の歯科医師が中心となり、口腔癌の術後や脳血管障害、神経・筋疾患、オーラルフレイルなどにより、うまく飲み込めない、食事中によくむせる、口から食べ物がこぼれやすい、口の中に食べ物が残るなどの食べる機能の障害がある患者さんに対し、どこに障害があるのかを診断し、口腔内環境の整備を含めた最適な治療計画を立案して治療を行っています。

### 診療体制

口腔外科及び高齢者歯科の歯科医師が中心となり、言語聴覚士や歯科衛生士、看護師、栄養士などのスタッフと協力して、年間約100名の外来・入院患者さんの治療にあたっています。

### 治療方針

各種口腔内診査や嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査などを行って、患者さんの摂食嚥下にかかわる問題点を探り、「口から食べる」ための環境を整えながらリハビリテーションを行っています。

摂食嚥下にかかわる器官の運動性や知覚を高めるための機能訓練や、飲み込みやすい姿勢や飲み込み方の指導、個別の摂食嚥下能力に合った食事内容の指導、舌接触補助床(飲み込みを助けるための義歯タイプの装置)や顎義歯(手術で顎に欠損ができた方への義歯)の作製、口腔ケアの指導など多岐にわたります。

特に、口腔癌で舌の一部または大部分を失った患者さんに対して舌接触補助床を作製したり、下顎の骨を失って足の骨などで再建をした患者さんには義歯を入れやすい形態にするための手術をしてから義歯の作製やインプラント治療をしたりなど、よりよく「口から食べる」ことができるよう、チームで診療を行っており、これが一つの特色となっています。

### 診療時間

初診、再診ともに主に毎週水曜日の13:00～16:00

嚥下造影検査 毎週水曜日13:30～14:30

お問い合わせ 第3診療室(口腔外科)：011-706-4349

または

第4診療室(高齢者歯科)：011-706-4346



カンファランスの様子



顎義歯



いろいろなタイプの PAP

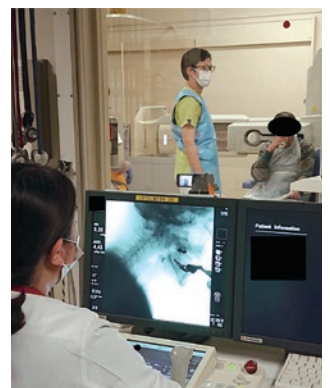


PAP装着時

### 担当歯科医師

氏名	職名	専門分野	所属学会・資格など
鄭 漢忠	教授	口腔外科	日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士 日本口腔外科学会指導医・専門医
山崎 裕	教授	高齢者歯科	日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士 日本口腔外科学会指導医・専門医 日本老年歯科医学会認定医・指導医
高山芳幸	講師	義歯補綴科	日本補綴歯科学会専門医
栗林和代	助教(外来責任者) (口腔外科外来医長兼任)	口腔外科	口腔外科学会専門医 がん治療認定医(歯科口腔外科) 口腔科学会認定医
岡田和隆	助教	高齢者歯科	日本老年歯科医学会認定医・指導医

他 非常勤歯科医師(日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士)など



検査風景(コロナ禍前)



## 臓器移植医療の総合窓口：臓器移植についてなんでもご相談ください

臓器移植医療部は2002年7月、国立大学病院としては京都大学に次いで全国で2番目に移植医療の定着と発展を目的として新設されました。当初は肝臓、膵臓、小腸移植の窓口となっておりましたが、2011年からは腎臓、心臓移植に範囲を広げ、現在、北海道におけるすべての臓器移植希望患者(肝臓、腎臓、膵臓、心臓、小腸)に対する総合的な窓口となっています。また、脳死下や心停止後の臓器提供に対する道民の理解を目的とした各種の啓蒙活動を積極的に展開しています。

### スタッフ

2011年から部長を嶋村 剛(診療教授)(肝臓、膵臓、小腸移植担当)が務め、腎臓移植医である泌尿器科の堀田記世彦(講師)、心臓移植医である循環器・呼吸器外科の大岡智学(助教)が副部長を兼任しています。また、移植医療に欠かすことのできないコーディネーター業務には、山本真由美・柏浦愛美レシピエント移植コーディネーター(肝臓・膵臓担当)、高田めぐみコーディネーター(腎臓担当)、榎引勝年・加藤美香コーディネーター(心臓担当)の5名があたり、太田 稔臨床工学技士(医療技術部)を含めた移植医療のエキスパートが従事しています。さらに、看護部(鹿内三起子副看護部長、中野政子外来看護師長)、当該診療科、手術部、集中治療部、病理部、検査部など多岐にわたる関連各科との連携構築の中核としての機能を果たし、病院の高い総合力に裏付けられた医療の実践に寄与しています。



### 実績

当院では2020年10月までに肝移植334例(生体肝移植270例、脳死肝移植62例、ドミノ肝移植2例)、膵腎同時移植6例、膵臓単独移植3例、腎移植464例(生体腎移植402、脳死・心停止後(献腎)移植62)、心移植7例を実施してきました。なかでも脳死肝移植には開設当初から積極的に取り組み、実施数は全国で2番目に多い施設となっています。

### 今後の取り組み

2010年7月の臓器移植法改正を契機に脳死下での臓器提供が増えています(2019年は97例)。法改正後現在まで全国で640例の脳死下臓器提供が得られましたが、このうち39例(6.1%)が北海道(全人口の4.2%の地域)での提供となっており、人口比は全国で一番高くなっています。より多くの患者さんに移植を通して元の生活を取り戻していただくために、増加しつつある臓器提供への対応、移植希望患者(レシピエント)への手術実施はもちろんのこと、臓器提供推進の活動も引き続き展開していきます。その一助として部内に臓器提供に携わる医療者への相談窓口も開設しました(ポスター参照)。

このほか、生体移植における血液型不適合移植の適応拡大、至適免疫抑制療法に向けた免疫モニタリングの確立、調節性T細胞による免疫寛容の誘導、認定スタッフの拡充、院内・院外での講習会開催などを引き続き実施して参ります。

道内の肝移植、膵移植、心移植実施認定施設は当院に限定されています(腎臓移植は他に5施設、小腸移植は他に1施設あり)。移植希望患者のご紹介はもとより、移植患者の術後フォローアップでも広い北海道をカバーするには、地域医療連携が不可欠です。これまでのご協力に感謝申し上げますとともに、今後も変わらぬご支援を賜ればと存じます。

臓器移植医療にかかるご質問については、臓器移植医療部内コーディネーター事務室(011-706-7750)までお気軽にお寄せください。

相談窓口(ファーストコンタクト)の菅田です



医療関係者向け

## 移植医療 相談 ダイヤル

医療関係者の皆様からの臓器提供・臓器移植についてのご質問・ご相談は相談ダイヤルに、道内で最多の臓器提供経験を持つ北大病院の救急医・脳神経外科医・脳神経内科医・脳波測定技師、移植医・移植コーディネーターなど臓器提供・臓器移植に関連した医療スタッフがお答えします。現場での各種な問題など何でもご相談ください。

☎ 011-706-7063

(北海道大学病院 臓器移植医療部内)  
受付時間/平日9:00~17:00


 北海道移植医療推進財団  
 Hokkaido Transplant Medical Promotion Foundation

# ICTネットワークのご紹介

医療情報企画部 山本 健二

## ICTネットワークの構築と取り組みについて

当院では、地域医療連携の取り組みの一環として、ICT(情報通信技術)を利用して各連携病院と医療情報を電子的に共有しています。これは、医療の質と安全性の確保のために、相互の連携をスムーズに行うためのもので、当院ではこの仕組みを「ICTネットワーク」と呼んでいます。

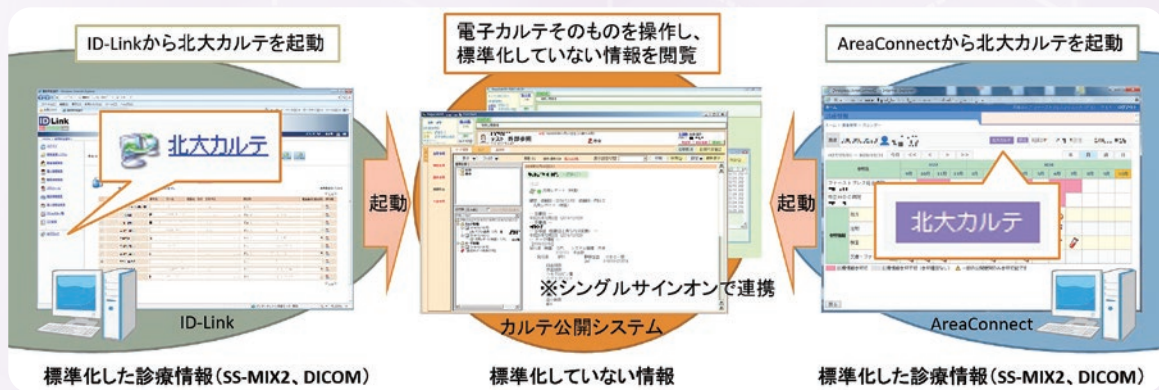
北海道では、広大な各地域の中核病院毎に医療情報を共有できるネットワークが構築されていますが、当院では、それらの各地域と幅広く連携ができるように、複数のシステムを複合的に組み合わせ構築し、対応しています。

具体的には、地域医療連携ネットワークシステムとして、道央、道南、釧路圏で主に利用されている日本電気株式会社の「ID-Link」、道央、道北、十勝圏で主に利用されている株式会社ファーストブレスの「Area Connect」を導入しています。これらは当院の電子カルテシステムと連携し、患者番号を相互に紐付けることで、双方の医療機関が持つ医療情報を同一画面で共有できる仕組みです。厚生労働省が定めた SS-MIX2 標準化ストレージを利用することで、処方、注射、検査結果等の情報が過去にわたって時系列で閲覧でき、国際標準規格 DICOM の X線一般撮影、CT、MRI画像等の閲覧もできます。さらに、当院の電子カルテシステムそのものを閲覧できる「シンクライアント方式」を併用しています。これにより、診察記事、看護記録、医療文書、デジカメ画像等の情報も共有できる仕組みとなり、より詳細な医療情報の把握が可能です。

当院では、ICTネットワークを構築、発展、活用することで、各連携病院とより緊密に患者さんの医療情報を共有し、質の高い安全な医療の提供を実現すると同時に、医療機関間の連携をスムーズに行うことを目指しています。

当院の医療情報システムは HP で紹介しています。

[https://www2.huhp.hokudai.ac.jp/~mi-w/contents/medinfo/Overview\\_System.html](https://www2.huhp.hokudai.ac.jp/~mi-w/contents/medinfo/Overview_System.html)



## ICTネットワークを利用する患者さんの同意取得方法について

ICTネットワークを利用して各連携病院と医療情報を電子的に共有するには、患者さんの同意が必要です。当院では、院内掲示と口頭説明による同意取得(オプトアウト方式)に向けて、取り組みを進めています。

従前では、患者さん個々に同意文書を用いた同意取得(オプトイン方式)を行っていましたが、個々に同意を取得することにハードルの高さがありました。

しかし、平成29年5月30日に改正個人情報保護法が施行され、同時に、「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス(個人情報保護委員会・厚生労働省)」及び「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン(厚生労働省)」も施行され、その後の厚生労働省の通知にて、患者さんの傷病の回復等を含めた医療提供のためであればオプトアウト方式での同意取得が可能となりました。

より多くの患者さんに、質の高い安全な診療の提供を実現するために、より簡便でわかりやすい運用を検討しています。





# VPNネットワークを利用したカンファレンス

医療情報企画部 日下部 龍巳

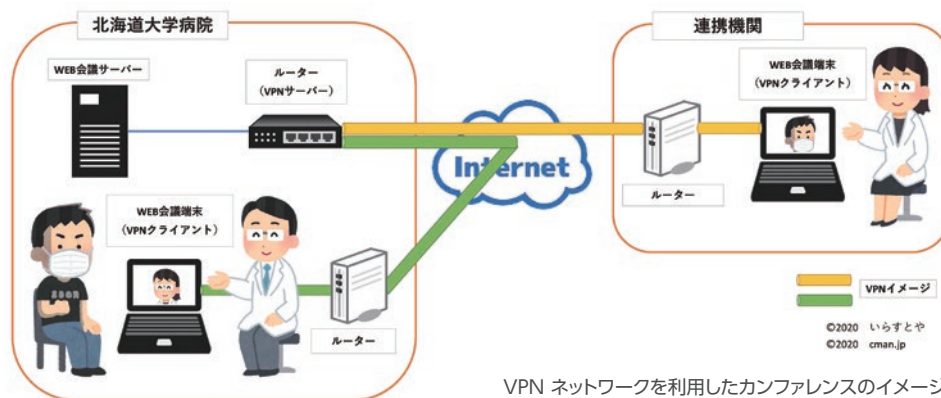
地域の医療機関、介護施設との連携において、患者さんの情報を共有する会議として連携機関間でのカンファレンスが行われます。カンファレンスの内容には、患者さんの個人情報や、病状、背景、家族関係などの秘匿性の高い情報も共有されます。現在は連携機関の方に当院にお越しいただきカンファレンスを開催していますが、昨今のコロナ禍においては新型コロナ感染拡大防止のため、インターネット回線を利用した Web会議でのカンファレンス開催が求められるようになってきました。

患者さんの情報をWeb会議にて共有する場合、当院内の医療情報システムネットワーク内であれば、外部との接続を行っていないため問題はありません。しかし、地域の医療機関とのカンファレンスをインターネットを介したWeb会議で行う場合は注意が必要です。個人情報保護法や、厚生労働省、経済産業省、総務省の定める医療情報を取り扱う際の3省3ガイドラインと呼ばれるガイドライン、当院の定める個人情報管理に関するガイドラインなど、順守すべき様々な法律、ガイドラインに留意する必要があります。

そこで、当院ではVPN(Virtual Private Network)接続というセキュアな通信技術を利用し、当院内に構築したWeb会議システムにインターネットを介して接続することで、安全にWeb会議を開催できるシステムの構築を検討しています。VPN接続とは「トンネリング」「暗号化」「承認」技術を用いて、インターネット上に仮想の専用通信経路を構築することで、盗聴・改ざんを防ぎ、比較的安全に通信を行うことができる仕組みです(※1)。また、一般的な Web会議システムのサーバーが海外にあることで総務省のガイドライン(※2)を満たせないことが多いため、当院内に独自に Web会議システムを構築することを検討しています。

本 Web会議に参加するためには、インターネットに接続されたWindows10のパソコンをご準備いただき、当院の指定する設定を行っていただくことで、アプリケーションのインストールなどは行わずに利用できる仕組みを想定しております。

今後、構築に際しご協力いただける連携機関におかれましては、接続試験などのお願いをさせていただきます。その際は何卒よろしくお願いたします。



VPN ネットワークを利用したカンファレンスのイメージ

- ※1 厚生労働省が定める「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」では、「オープンなネットワークを介して HTTPS を利用した接続を行う際、IPsec を用いた VPN 接続等によるセキュリティの担保を行っている場合を除いては、SSL/TLS のプロトコルバージョンを TLS1.2 のみに限定した上で、クライアント証明書を利用した TLS クライアント認証を実施すること。」とあります。
- ※2 総務省の定める「クラウドサービス事業者が医療情報を取り扱う際の安全管理に関するガイドライン」では、「サービスの提供に用いるアプリケーション、プラットフォーム、サーバ・ストレージ等は国内法の執行が及ぶ場所に設置する。」とあります。

## 編集後記

今年6月に入職しましたソーシャルワーカーの倉田佳奈子と申します。主に退院調整と在宅療養支援を行っております。めまぐるしく毎日が過ぎつまずいてばかりですが、多くの学びを得られる環境にありがたみを感じる日々でもあります。コロナ禍で他機関の皆様とは顔の見える連携が難しくなっていますが、患者さんの思いを丁寧に繋ぐ連携を目指したいと思っております。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。(MSW 倉田 佳奈子)

発行 令和2年12月

北海道大学病院  
地域医療連携福祉センター

〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目

TEL : 011-706-7943 (直通)

FAX : 011-706-7945 (直通)

<https://www.huhp.hokudai.ac.jp/relation/index.html>